

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名: ピストール E (エアゾール)
 会社名: 株式会社タセト
 住所: 〒251-0014 神奈川県藤沢市宮前 100-1
 緊急連絡先: 化学品部
 電話番号: 0466-29-5638
 FAX番号: 0466-29-5630

推奨用途及び使用上の制限: 防錆浸透潤滑剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	エアゾール	区分 1
	* 記載のない物理化学的危険性は、分類対象外か分類できない。	
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入: 気体)	分類できない
	急性毒性(吸入: 蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入: 粉塵・ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分 3
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	分類できない
	呼吸器感受性	分類できない
	皮膚感受性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない	
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	区分外
	水生環境有害性(急性)	分類できない
	水生環境有害性(長期間)	区分 4
	オゾン層への有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール
 高压容器: 熱すると破裂のおそれ
 軽度の皮膚刺激
 長期的影響により水生生物に有害のおそれ

注意書き:

【安全対策】 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 静電的に敏感な物質を積みなおす場合または製品が危険有害な気体を発生させるほどの揮発性である場合、容器を接地すること。アースをとること。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】 皮膚(または髪)にかかった場合:直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

火災の場合:消火には粉末、泡または炭酸ガス消火器を使用すること。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の相談、手当てを受けること。

飲み込んだ場合:直ちに医師に相談すること。

吐かせないこと。

【保管】 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物

化学成分:

化学品名	濃度(wt%)	CAS No.	PRTR 法 ¹⁾
合成溶剤	35~45	非公開	非該当
鉱油 ^{II)}	10~20	非公開	非該当
防錆添加剤	5~10	非公開	非該当
噴射剤 LPG :プロパン :ブタン ^{II)}	10~15 25~30	74-98-6 75-28-5、106-97-8	非該当

危険有害成分

I)化学物質排出把握管理促進法 非該当

II)労働安全衛生法 第57条2 通知対象物質: 鉱油 (政令番号 168)、ブタン (政令番号 482)

2,6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール (政令番号 262)を1wt%未満含有

毒物劇物取締法 対象物ではない

4. 応急措置

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
体を毛布等で覆い、保温して安静に保ち、直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合: 汚染された衣服・靴などを速やかに脱ぎ、多量の水または微温湯と石鹼で付着した部分を洗い流す。
又、水疱、痛みなどの症状が出た場合には必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合: 清浄な水で十分に目を洗浄した後、直ちに眼科医の診断を受ける。
洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。

飲み込んだ場合: 無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受ける。無理に吐かせるとかえって肺への吸引等の危険が増す。
口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗浄する。

5. 火災時の措置

消火剤: 霧状の強化液、泡、粉末または炭酸ガス消火器。

使ってはならない消火剤: 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。
火災を拡大して危険な場合がある。

特有の危険有害性: 発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。

特定の消火方法: 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用し消火する。
初期の火災の際には粉末や炭酸ガス消火器を用いる。
大規模火災の際には泡消火薬剤を用いて空気を遮断することが有効である。
注水は火災を拡大して危険な場合がある。

消火を行う者の保護: 消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。
 燃焼又は高温により、有毒なガスが生成する可能性があるため呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具 除去作業の際には必ず適切な保護具を着用する。
 及び緊急時措置: 漏出した場所の周囲にロープなどを張り、関係者以外の立ち入りを禁止する。
 環境に対する注意事項: 河川、下水道等に流入しないように注意する。
 封じ込め及び浄化の方法・機材: 漏出源を遮断し、漏れを止める。
 少量の場合には、土砂、ウエス等で吸着させて回収する。
 大量の場合には土砂等で囲い、流出を止めた後、回収する。
 海上の場合、オイルフェンスを展開し拡散を防止し、吸着マット等で吸い取る。
 二次災害の防止策: 事故の未然及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。周囲の着火源となるものを速やかに取り除き、着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。こぼれた場所は滑りやすいため注意する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い
 技術的対策: 指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけるとともに、みだりに蒸気を発散させない。
 静電気放電に対する予防措置(導電性を有する作業衣や靴などの装着等)を講ずる。
 局所排気・全体換気: 室内で取扱う場合は十分な換気を実施すること。
 換気装置を取付ける場合は、防爆タイプを用いる。
 注意事項: 発生した蒸気は空気より重いので滞留し易いことより、換気および火気などへの注意が必要である。
 安全取扱い注意事項: 水分・きょう雑物の混入に注意する。
 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避ける。
 保管
 技術的対策: 保管場所で使用する電気器具は、防爆構造とし、器具類は接地する。
 適切な保管条件: 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。保管の際には危険物の表示を行う。熱、スパーク、火災及び静電気蓄積を避けることともに、みだりに蒸気を発生させない。保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。
 安全な容器包装材料: 容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂する事がある。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策: ミスト・蒸気が発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
 管理濃度: 設定されていない。
 (作業環境評価基準:厚生労働省告示第 195 号 平成 21 年 3 月 31 日)
 許容濃度:
 日本産業衛生学会(2012 年度) 3mg/m³ (鉱油ミスト)
 ACGIH (2011 年度版) TLV-TWA 5mg/m³ (Mineral oil)
 保護具
 呼吸器の保護具: ミスト・蒸気が発生する場合、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
 手の保護具: 長時間、または繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。
 目の保護具: 飛沫が飛ぶ場合には、ゴーグル型眼鏡を着用する。
 皮膚及び身体の保護具: 耐油性の長袖作業衣、安全靴を着用する。濡れた衣服は脱ぎ、完全に清浄してから再使用する。
 適切な衛生対策: 付着した衣類は脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用する。取扱い後は、よく手を洗う。
 作業中は飲食、喫煙をしない。

9. 物理的及び化学的性質

外観:	淡黄色透明液体
臭い:	石油系溶剤臭
pH:	該当しない
沸点:	現在データなし
融点:	現在データなし
引火点:	63°C
発火点:	現在データなし
燃焼性:	あり
爆発限界:	合成炭化水素油として 上限 6.2% 下限 0.6%
蒸気圧:	現在データなし
蒸気密度:	現在データなし
密度:	0.81 g/cm ³ (15°C)
溶解性:	水に不溶
オクタノール/水分係数:	現在データなし
分解温度	現在データなし
動粘度:	<5 mm ² /s (40°C)

「噴射剤」LPG	プロパン	ブタン
沸点 :	-42°C	-0.5~-11.7°C
凝固点 :	-187°C	-138~160°C
引火点 :	-90°C	-72~-81°C
爆発限界 :	2.2~9.5 vol%	1.8~8.5 vol%
蒸気密度 :	1.15 (空気 1)	2.07 (空気 1)

10. 安定性及び反応性

安定性:	常温・常圧で安定
危険有害反応可能性:	強酸化剤との接触を避ける
避けるべき条件:	混触危険物質との接触
混触危険物質:	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質
危険有害な分解生成物:	燃焼により煙、一酸化炭素等が発生する可能性がある

11. 有害性情報

急性毒性:	経口	ラット LD ₅₀ 5000mg/kg 以上 (推定値)
	経皮	現在データなし
	気体	現在データなし
	蒸気	現在データなし
	粉塵及びミスト	現在データなし
皮膚腐食性/刺激性		皮膚に触れると刺激、炎症を起こすことがある。(区分 3)
目に対する重篤な損傷性/刺激性:		目に入ると炎症を起こすことがある
呼吸器感受性:		ミストまたは蒸気を吸入すると気分が悪くなることもある。
皮膚感受性:		現在データなし
生殖細胞変異原性:		現在データなし
発がん性:		IARC グループ 3 に分類される
生殖毒性:		現在データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露):		現在データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露):		現在データなし
吸引性呼吸器有害性:		エアゾールはミストの状態では噴霧されるので、通常は該当しないため、区分外とした。

12. 環境影響情報

水性環境有害性(長期間):	原料情報により区分4とした。
オゾン層への有害性:	区分外
残留性/分解性:	現在データなし
生態蓄積性:	現在データなし
土壌中の移動性:	現在データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:	「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に従い適正に処理する。 産業廃棄物は事業者が自ら処理するか、または知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合にはそこに委託して処理する。 廃容器の取り扱い空容器に圧力を加えると破裂することがある。 空容器は溶接、加熱、穴開けまたは切断を行なうと、爆発を伴って残留物が発火することがある。
--------	--

14. 輸送上の注意

輸送時には「7. 取扱い及び保管上の注意」の項に記載した内容に留意する。

国際規制

国連番号	1950
品名(国連輸送品名)	エアゾール (Aerosols)
Class(クラス)	2.1
容器等級	—
海洋汚染物質	非該当

国内規制

陸上	消防法	消防法の規定に従う。
	道路法	道路法 施行令第19条の13 (通行制限物質)
海上		船舶安全法の規定に従う。
航空		航空法の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号

126

輸送の特定の安全対策及び条件

運搬容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。
指定数量以上を車両で運搬する場合は、「危」の標識を車両前後に表示し、消火設備を備える。第1類及び第6類の危険物との混載を禁止する。

15. 適用法令

消防法:	危険物 第4類 第二石油類 (危険等級Ⅲ)
労働安全衛生法:	危険物: 引火性の物、可燃性ガス 通知対象物質を含有する。
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	非該当
船舶安全法:	高圧ガス、エアゾール (危規則第2、3条危険物 告示別表第1)
航空法:	高圧ガス、エアゾール (航空法施行規則 第194条、告示 別表第1)
海洋汚染防止法:	危険物 油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律:	産業廃棄物規制

16. その他の情報

参考文献:

- 1) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS 分類結果
- 2) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [混合物用(塗料用)]」
- 3) JIS Z 7252: 2009「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
- 4) JIS Z 7253: 2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- 5) ㈱タセト 社内資料 (原材料MSDS)

記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者に提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていない、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。